

9月 絵本であそぼ!

■0歳児

絵本『おつきさまこんばんは』



十五夜を前に、絵本『おつきさまこんばんは』を読んできました。「こんばんは」に合わせて、お辞儀をしたり、「お…ば…わ！」と声を出してみたり、おつきさまが出てくると、指さしをして教えてくれたりします。最後のページでは、お月様があっかんべーをしているのですが、保育士が毎回「べえー」と、舌を出して真似っこしているのを見てひとり、そして真似っこするお友だちを見てまた一人と真似っこする子が増えてきました。「おはなしさん、はじめようかな～」というと、棚の上の絵本を指さして「これよんで！」と、リクエストする子もいるくらいです。

◆1歳児

絵本『あかまるちゃんたくろまるちゃん』

あかまるちゃんと出会って、まねっこごっこをするときは「○○になあれ、へんしん、へーんしん！」の合言葉でいろいろなものに変身してまねっこごっこを楽しんできました。あかまるちゃんになりきった子どもたちがくろまるちゃんと遊んでいるときに怖いお化けやオオカミがやってくると、大風になって「ふー」と吹き飛ばしてやりとりを楽しんできました。大好きになった『あかまるちゃんたくろまるちゃん』の絵本でのごっこあそびから取り入れたものを運動会でも遊んでいこうと思っています。10月もいっぱいあかまるちゃんの世界を遊んでいこうと思います。

●2歳児

絵本『999ひきのきょうだい』

999匹のかえるの兄弟たちが大きく育ち住んでいた池が窮屈になったので、家族でもっと大きな池に引っ越すことにしました。大きな池を探して歩いていると、細長い物を発見!!「これは何？」と引っ張ってみるとなんとヘビ・・・捕まった兄弟を助けるためにヘビを引っ張って退治しました。

～力を合わせて オーエス オーエス～

この絵本で子ども達が一番好きな場面は、捕まった仲間を助ける為に力を合わせてヘビを引っ張ってやっつける場面です。ヘビを引っ張るときに「オーエス オーエス」と元気に掛け声をかけてくれます。散歩先でも突然、ヘビに扮した保育士が現れると、誰かが捕まるとつなひきごっこがはじまり沢山楽しみました。そしてその後は怖いヘビさんでしたが一緒かけっこしたり、お散歩したりして仲良ヘビさんと仲良く遊んだ子ども達でした。

●3歳児

ごっこ遊び：ばったのびよんこちゃんごっこ

実際に春から卵から育ててきたバッタのびよんこちゃんがいなくなっていました。びよんこちゃんがいなくなること気が付くと「くもさんにつかまったかな」「迷子になってるんじゃない」「さがそう」とみんなで「びよんこちゃんどこ？」と呼びかけたり、散歩の帰りに飛んでいるトンボやカエルに「びよんこちゃん知ませんか？」と聞いて歩きました。部屋に帰っても他のクラスの子ども達や先生に「知らない？」と心配そうに聞いていました。するとクモさんから「びよんこちゃんを捕まえた」との連絡！ それを聞くと「かわいそう」「僕たちが助ける」と応えてくれ「みんなどうやって助ける？」と尋ねると、べっこうバチになる！と絵本の中でべっこうバチがクモの巣からびよんこちゃんを助けているのを思い出し、みんなもべっこうバチに変身してクモからびよんこちゃんを助けるために力をつけています。

◆4・5歳児

絵本『くろずみ小太郎ごっこ』



「くろずみ小太郎旅日記」の読み聞かせを深める中で、子どもたちの心の中にも、くろずみ小太郎の存在が大きくなってきました。忍者になりたい！小太郎に会いたい！という思いがどんどん膨らんでいます。忍術の修行表をもらってから、運動課題に対しての意気込みも高まっています。日々生き生きと過ごしている子どもたち。

ある日千景先生の腕が紫色になっていました。子どもたちも「痛そう」と心配してくれました。その中で「もしかしてアメフラシが…」と青ざめる子ども達。そこで千景先生も「そういえば、雨の中、畑のおくらを取りにいったの、そしたら紫色の雨が降ってきてね」と話し始めると、「やっぱりアメフラシだ！アメフラシの汁がついたんだ」「先生痛い？」「大丈夫？」「このままだったらアメフラシになっちゃう」と心配していました。

そこで「どうやったら治るかしら」と問いかけると「病院に行けばいい」「湿布張ったら？」「うん薬買ったらいい」「でもアメフラシだよ、効かないかも…」と行き詰ってしまいました。「じゃあ、どうする、このままだとどんどん傷がひどくなるよ」と投げかけていると、「アッ 小太郎」「くろずみ小太郎から薬をもらったら！」「忍者は薬屋さんだったんだよね」「じゃあくろずみ小太郎にお願いしよう」「電話する？」「電話は持ってないかも」「ほら手紙書いてポストに入れるの！」という事で、ぶどう組の子どもたちが中心となり、手紙の内容をりんご組、ぶどう組の皆で考え、手紙を書きました。そして一生懸命に書いた手紙をポストに入れに行き、「くろずみ小太郎さん、千景先生の腕がよくなるように、薬を下さいとお願いをした子どもたちでした。

薬が届いていたよ！

次の日、朝から「先生くろずみ小太郎さんに手紙届いたのかな…薬がなかったよ」「読んでいないのかな」「アメフラシが手紙を取っていったのかな」「どこにあるか探したんだけどない」

と残念そうに伝えに来てくれました。「お昼寝のあとかな」「みんなが寝ている時につま先歩きで持ってきてくれるかも」「お散歩から帰ったらあるかも」「お庭のポストに届けてくれるかも」「誰かのダンスとかね」期待を寄せる子どもたち。お散歩中も気が気じゃありません。「先生今、黒い影が見えた」「ほら見て！」とよーく見ると「何だあゆみ先生か、黒い服着てたから間違えた」ととぼとぼ歩く子どもたち。さらにもう一度お山に向かって「くろずみ小太郎さん、千景先生の腕を治すための薬を届けて下さい」とお願いする子どもたちが愛おしくてたまらない場面でした。

期待と不安で帰りついた保育園。「もしかしたら薬があるかも」とワクワクドキドキと部屋に入った瞬間。目に飛び込んできたのは、手紙と葉っぱにくるまれた何かでした。

早速手紙を読みあげ、葉っぱの中身が薬と分ると大喜びの子どもたち「やったーこれで千景先生の腕を治せる！」「くろずみ小太郎さんありがとう」ととても大きな声でお礼を言っていました。

その後葉っぱの包みを開き、薬を手にした子どもたち。「なんかひんやりする」「薬のにおいがする」「本物の薬のにおいだ」「なんかすーってするね」と確認してから、早速千景先生の腕に薬を張り、「千景先生の腕が良くなりますように」とお願いし、みんなで「やったー」とハイタッチして喜び合いました。

子どもたちがこんなに心配してくれるとは、私たちも嬉しい限りでした。休み明けすっかり良くなった腕を見て「紫色じゃなくなっている！」と感激した子どもたちです。

そしてくろずみ小太郎への憧れと会いたい思いをさらに膨らませています。今後もさらなる展開が待ち受けています。その時子どもたちはどうするでしょうか…楽しみです。

